

## 賛育會の近況

理事 醫學士 河 田 茂

私共賛育會が、母體保護、幼兒保護の事業にあたる爲め、大正七年三月本所區太平町に妊婦乳兒相談所を開始し、其後大正八年八月同區柳島梅森町に本所産院を新築して此處に移轉しましてから、三年の月日を経過しました。近頃の賛育會の状態を一寸お話しして見ようかと思ひます。

賛育會の事業として致して居ります事は、産婦の無料入院助産、無料往診助産、妊婦相談所、乳兒相談所、幼兒晝間保育、乳兒相談所とであります。

今此處に大正九年度の事業報告をあげて見ます。産院の方では、入院患者は百七十六名で、これを延人員に致しますと、千六百二十八名あります。平均一人の入院日数は九日強に當つて居ります。助産数は二百九名、内入院してお産をいたしましたものが六十二名、往診によるものが四十七名あります。入院患者の数が入院助産数より多いのは、産前産後の病氣の爲め入院した者があるからであります。これ等の

内には珍しい難産のものもありまして、自宅にゐては助からなかつたらうと思はれる様なものもありました。私共の働きによつて、一年に一人でも二人でも生命が助かるならば満足に思ひます。

妊婦乳兒相談所は、外來診察は毎夕（日曜、祭日の外）午後五時から七時まで受付けて居ります。新來患者は、二千百九十二名で其内小兒は一千百四名で、婦人は一千八十八名であります。再來患者は五千八百六名で、其内小兒は二千九百三十名、婦人は二千八百七十六名であります。外來診察患者の延人員は七千九百九十八名で、一日平均二十五名ありました。投薬数は九千八十一名で、一日平均二十九名であります。薬は二日乃至三日分宛を、水散兩種與へたものもありますから、二萬日以上分の施薬をした事になります。

保育所に就ては、夫婦共稼ぎせなければならぬ労働者の手足纏ひとなる幼兒の晝間保育をいたして居

りますが其延人員は九千五百十二名、其内男兒は六千十四名で、女兒は三千四百九十八名であります。一日の平均は三十三名許に當ります。三月に私共の手を離れて小學校に送られた者が十八名あります。

大正十年になつてから、極く最近の状態を述べますれば、五月には、入院患者が十七名、延人員一六四名、助産は入院十六名と往診二名、外來は小兒七十二名、婦人は九十名、延人員六百六十九名、保育小兒(延)八百十四名、六月には入院患者十七名、延日數は百三十六、助産入院十五、往診二、外來(新)は小兒五十八、婦人八十六、延人員六百七十三、保育小兒(延)七百二十六、七月には、入院患者二十七名、延人員二百四十四、入院二十七、往診二、外來(新)小兒五十八、婦人は八十六、延人員は六百五、保育小兒(延)六百十一名であります。

本所産院に設けられてある乳兒室は、都合により今迄使用する運びに至りませんでした。今度定員八名迄、一歳未満の乳兒を預る計劃となり、去る九月二十日より始めました。東京府から本事業の爲めに、金一千圓を補助せられる筈であります。母親の死亡、又は病氣の爲め、孤兒院へ送るほどでもない嬰

兒を取敢ず預つて呉れる乳兒晝夜保育所は、東京にて最も必要な事業であります。皆様の御同情なる金員の御寄附を仰いで、完全に發達することの出来るやうに御願ひ致します。心強いのは、小兒科の三輪博士がこの事業の顧問になつて居られます。この外に産院の方は、濱町産科婦人科病院の木下正中博士が顧問になつて居られます。

本所區は淺草に次いで、人口の多い區でありまして、工場労働者も澤山居住して居ります。本會の事業に對して工場主の贊助を得たいと思つて居りますが、中々其の方面に運動を起すやうになりません。然し努力して事業を經營してさへ居れば、その中に事業の内容も追々に了解され、援助される事が出来るだらうと信じて、一生懸命仕事をして居ります。

本所邊の労働者階級の多く住してゐる所に、私共贊育會の事業が設けられて居りますのは、場所を得たものと喜んで居ります。低地のじめじめしたところや、煙突の煙がうす暗く空を覆ふところに、毎日毎日の労働に追はれて、多忙な不健康な生活をしてゐる婦人達や子供等が澤山あります。其の人々の爲に、安心して衛生的にお産が出来、そして生れた子供らにも、安心して衛生的な保育をすることが出来るやうにしたのですから、其の喜びも多い事と思つて居ります。